

桑野塾

桑野塾 検索

<http://deracine.fool.jp/kuwanojuku/>

大学などの研究者に限らず、興味を持って研究していることを自由に発表しあう「広場」です。
どなたでもご参加いただけます。
それぞれの興味が少しずつ重なり合うことで、新たな知見を見いだそうという場です。

第56回

2019年
5月18日(土)
15:00 ~ 18:00

早稲田大学 戸山キャンパス 33号館 231号室

★ どなたでもご参加いただけます。会場に直接お越しください。

参加無料

☆ 終了後、近くの居酒屋で懇親会を開催します。(飲食費は別途)

※予約の都合上、懇親会参加をご希望の方はなるべく事前にご連絡いただくと助かります。

※報告者・タイトルは変更の可能性もあります。ご了承ください。



マレーヴィチはヴィテプスクで何を夢見たか？

報告者：沼辺 信一

抽象美術の教育現場を捉えた一枚の写真が物語るもの



ヴィテプスク人民美術学校で講義するマレーヴィチと「ウノヴィス」のメンバー(1921年9月)
背後の壁にひときわ高く掲げられた二枚の絵画に注目。

●沼辺 信一(ぬまべ しんいち)

編集者・研究者。1952年生。ロシア絵本の伝播、日本人とバレエ・リュス、プロコフィエフの日本滞在など、越境する20世紀芸術史を探索。
桑野塾登場は六回目。 ブログ <http://numabe.exblog.jp/>

1919年11月、カジミール・マレーヴィチはモスクワからペラルーシの都市ヴィテプスクに移り住みます。同地に創設された人民美術学校の教授として、校長マルク・シャガールから招かれたのです。すでに独自のスプレマチズム理論による抽象絵画を完成させたマレーヴィチは、鋭敏な知性と不屈の闘志を兼ね備えたカリスマ教官であり、学生たちも同僚の教授たちもほどなくマレーヴィチの感化を受けて芸術集団「ウノヴィス」を結成。美術学校はスプレマチズム探究の場と化し、史上初の抽象主義に基づくカリキュラムが実践に移されます。面目を失った校長シャガールは、失意のうちにモスクワ転居を余儀なくされました。

20世紀美術史を画する出来事から今年ちょうど百年。このまたとない機会にマレーヴィチが夢見た芸術革命の意義を考えるとともに、ヴィテプスクの教育現場を写した一枚の写真を手がかりに、スプレマチズム絵画が辿ったその後の数奇な運命についても報告します。



マレーヴィチもしくはアンナ・カガン？
《スプレマチズム》(制作年未詳)
佐倉、DIC川村記念美術館



マレーヴィチ《スプレマチズム》(1915年)
サンクト・ペテルブルグ、国立ロシア美術館